

福井ふるさと学びの森「森での保育体験」

県内での「森のようちえん」を推進するため、保育士を目指す学生を対象に、幼児との自然体験活動を通して野外での幼児に対する接し方や安全面について学ぶ「森での保育体験研修会」を開催しました。

- 1 日 時：令和元年8月26日（月）～27日（火）
- 2 場 所：福井ふるさと学びの森（若狭エリア）
- 3 参加者：仁愛大学人間生活学部子ども教育学科（越前市） 学生 8名
気山保育所（若狭町） 幼児 17名
- 4 講 師：NPO法人森林楽校・森んこ 代表 萩原茂男氏
- 5 開催概要：

（1）8月26日（月）

○ネイチャーゲーム体験（自然体験）

- ・ネイチャーゲームについては知っている学生が少なかったが、1例として、紙に書かれた○や△等のや同じ色の物（葉、枝、景色等）を周囲の中で探し出すネイチャーゲームを体験した。
- ・萩原さんからはこのゲームは簡単にでき、園児も喜ぶため、プログラムの導入部分で行うのがお勧めという説明があった。



○安全管理

- ・萩原さんは安全管理として、野外で起こりうる危険について例を示しながら紹介し、それらをすべて考慮した上で体験を実施しなければいけないと説明した。
- ・学生は3グループに分かれ、実際の現地でどのような危険が潜んでいるか、それをどのように園児に伝えるかを話し合った。



○自然体験プログラムの作成

・気山保育所の先生にも協力していただき、学生は園児の性格や特徴を教えてもらいながらプログラムシートを作成した。シートには、活動のねらい、内容、安全管理、準備物、対象者、参加人数など、プログラムを行う上で必要となる項目を記入した。作成後、グループごとに発表を行った。

■プログラム内容

(グループ①)「虫の家づくり」

紙に書かれた形や色と同じ物を探し集めるネイチャーゲームと、虫探しを行い、それらを使った虫の家づくりを行う。

(グループ②)「里山ミュージアム」

手遊び歌を歌った後に自然物を探し、それらを使ったクラフトを、幼児の自由な発想で作る。

(グループ③)「すてきなものをつくろう」

森の中で落ち葉や枝を集め、種類を数えてみた後、それらをブルーシート等の上に乗せ、動物のイラストを作成する。

・三方青年の家では、作成したプログラムを基に準備を行った。



(2) 8月27日(火)

○現地確認

・幼児との自然体験活動前に現地確認を行った。学生は、現地の状況は前日と比べて変わっていないか、どういう流れでプログラムを進めていくかを再度確認した。萩原さんは、当日の下見は必ず必要であり、少しの時間でも良いので行うことが大切と説明した。

○幼児との交流(場所:気山保育所)

・3つのグループごとに分かれ、幼児たちと自己紹介を行った。



○幼児との自然体験活動

- ・最初に学生は幼児に「森の中では走らない」、「危ない場所」など森の中での注意点について説明した。どのグループも幼児と馴染むのが早く、幼児も楽しそうに森の中で活動していた。予定のプログラム通りには進まなかったが、それでも園児からは「すごく楽しかった、もっと一緒に遊びたかった」という意見が多かった。



○昼食作り、ふりかえり（場所：三方青年の家）

- ・薪を使った炊飯、カレー作りを行った。



- ・萩原さん、気山保育所の先生、学生を交えて、ふりかえりを行った。

<学生>

- ・材料集め、物づくりの時間配分が難しく、活動時間が長くなってしまった。
- ・幼児には「楽しかった、もっと一緒にいたい」といってもらえて嬉しかった。
- ・自分たちをいつでも思い出してくれるように、形として残り、記念になるものを作りたかった。また、物を探すゲームの流れとして物を作ることにした。
- ・野外での保育体験は初めてで、園内とは異なる危険予知、安全管理は勉強になった。

<萩原さん>

- ・学生の幼児への接し方がすばらしく、すぐに溶け込んでいた。

<気山保育所>

- ・幼児への最初の接し方がすばらしく、慣れていた。幼児との距離も近く、安心できた。
- ・初めての野外での活動は時間配分が難しかったと思う。
- ・野外での活動は予測しないことも起こったかもしれないが、それをカバーする柔軟性と余裕が大切。また、幼児に話を聞いてもらうには、自分の背後に気になるものがないようにするなど、環境を整える必要がある。
- ・物を作成する際、自然の中において普通はガムテープや接着剤はない。野外の活動の際は自然のもの（蔓や草）を使い、物作りができることを覚えておいてほしい。

